

CHOICE

表(HEAD)か 裏(TAIL)か
 ルージュ(赤)か ノワール(黒)か

いつもいつも泥のようになされて、そんなことばかり考えていた。毎日毎日、頭から離れないのは賭けのことばかり。勝った時の一瞬の強烈な歓喜、熱く血がたぎるような興奮。負けて全てを失った時の身も凍る悔しさ、倦怠、怒り、底知れない不安。どちらにしても、勝つか負けるか二つに一つ。勝っても負けても、結局次の勝負に焦がれている。



そのほかには何も思うこともない。心配な事はただ賭けの事だけ、記憶の中に残るのも賭けの事だけ。俺のこの体の隅々までもう他に何も無い。金だってこのポケットの中の硬貨だけ。何も残ってやしない。残っているのは、思い出せないほどの借金の数ばかり。一度はまっとうに世の中で生きていた俺だ。それがどうだこのざまは。けものみたいな目をして、無一文で、見知らぬ人の懐さえ狙っている。それもこの渴ききった腹を満たすためじゃない。次の賭けにつぎ込む金を夢見てる。

疲れ果て、眠りにつけば、死人の悪夢に悩まされる。悪夢から醒めた一時だけは、いつも思う。今日限りきっぱりとこの地獄と手を切るのだと。今だってその気になれば、あの昼間の世界に戻って、ござっぱりとした上着を着込んで、いつかのように何気ない顔で暮らすことができるのさ。そう、いつだって。ああ、温かい部屋、新しい仕事、清潔で気持ちの良い柔らかいベッド。そうだ、戻れないことはない。その気になればいつだって。どでかい賭博で一山あてれば、どんな生活でも思うままなんだ。今までのささいな失敗は全部ちゃらになって、俺はまっとうな暮らしに戻るんだ。この長い長い砂漠のような夜、そしてまた砂漠のような朝へ。俺の疲れた目は本当に眠ることはなく、いつも目覚めている。ふむ。しかしそれも悪くはない。この裏町の夜空には銀色の星が出る。そのキラキラする輝きを一晚中まんじりともしないで眺めているんだ。考えてみれば、まっとうな生活もいいが、この夜空の下に眠るのも悪くはない。さて、どうするか？ 明日の勝負で決めるかな？

表(HEAD)か 裏(TAIL)か

ルージュ(赤)か ノワール(黒)か

パール(偶数)か アンパール(奇数)か それとも 0?

COLUMN

鎌倉の猫事情 第二十三話

急いで帰っていったんです。それで、すぐスィーピーの箱を覗きました。スィーピーは落ち着き払った顔で横になっていて、お腹のところには真っ白な小さな赤ん坊が顔をうずめていました。時々ピチャピチャ音をたてながら、一心におっぱいを吸っているようです。やっぱり産まれたんだ。でもたった一匹？ 猫はたいいてい三、四匹はまとめて産むものだけだ。スィーピーのお腹を少し動かして裏側も覗いてみても、何も見当たらない。本当に一匹しか産まれなかったみたい。まだこれから産まれるのかしら？ まさか。



MAIL

2002年 Milk Hall Times
 名簿更新の時期が来ました！

ミルクホールタイムスをご愛読頂くお客様へのお願いです。今月にて今までにご登録頂いておりますお客様の住所録が無効となります。お手数ですが、来年1月末までに、名簿更新の手続きをして頂くようお願い申し上げます。詳しくは、MHT新年号にてご案内致します。



結局翌日もまた翌日も産まれる気配はなく、本当の一人っ子でした。スィーピーは大切そうに一粒種の赤ん坊を育てています。さて初めてのベビー誕生に、パパ猫グーニー君の心境はいかに？ あまりにあっけないお産だったので、その日いつものようにお散歩に出掛けていた彼は、そんなこととはつゆ知らなかったと思います。帰ってからもご飯をがつつ食べ、いつものようにしていました。が、夜になって、不思議そうにスィーピーと赤ちゃんのいるカーテンの向こうを眺めています。母子とも眠っているらしく何の音もしないのですが、何か感じているのです。そしてカーテン越しに穴のあくほどただ見つめていました。カーテン越しの親子の日々が何日か過ぎ、グーニーは、時折中から聞こえる鳴き声に耳を傾けています。ある日ついに彼にチャンスが訪れました。グーニーが表から戻ってくると、スィーピーがご飯を食べに出掛けており、カーテンは半分以上開いています。グーニーは勇気を出して、おそろおそろカーテンに顔をつっ込み、箱に前足を掛け、思い切って体を伸ばし、その中に動くものを見つめました。長い瞬間でした。いつまでもいつまでも眺めていました。そこへスィーピーが戻ってきました。スィーピーは箱のしかかっているグーニーを見つけたが、何も言いませんでした。背中にスィーピーの気配を感じたグーニーが振り向き、二匹は目を合わせました。そしてグーニーは覗き込むのをやめて箱から降りました。スィーピーはグーニーと代わり箱へ入って行きました。時々顔を上げて、カーテンの向こうを見つめていることはあっても、グーニーの日々はそれから変わる事はありませんでした。10日ほどすると真っ白い毛もふわふわし始めて、目もうっすらと明き始め、その赤ちゃんは女の子だということもわかってきました。そして、誰より子猫の誕生を今か今かと待っていたのはスィーピーの生家、小牧の梅野家の人たちだったので。 _____ to be continued

